

外部評価報告書の刊行に際して

名古屋大学農学国際教育協力研究センターは、1999年4月の発足以来、1回目は、2004年3月26日に、1999年から2002年度までの4年間の活動について、また2回目は、2009年3月23日に、2003年度から2007年度までの5年間の活動に関して、外部評価委員会を開催し評価を受けてきた。それらに続いて今回で3回目の開催となる同委員会には、本センターが取りまとめた、2008年度から2012年度までの5年間の活動に関する自己評価書に基づいて、評価をしていただいた。

今回委員長を務めていただいた、九州大学熱帯農学研究センター教授の緒方一夫先生は、当センターの開設当時から、様々な面で、お世話をして下さり、かつ、共同でお仕事をしてくださっているのので、古くからの経緯をよくご存じで、当センターの長所や弱点（限界）も知り尽くしておられる。また、本報告書にしばしば登場する、連携先として極めて重要な、名古屋大学生物機能開発利用研究センター長で名古屋大学教授・評議員の川北一人先生と、名古屋大学の中で最も密接にこれまでも連携を積み上げてきた研究科の一つである国際開発研究科教授の宇佐見晃一先生にもお力添えをいただき、最近の5年間のわれわれの新しい研究活動の展開について、評価をお願いした。

その結果、要点を極めて的確に整理して、本センターの今後の活動方向に対してさまざまな観点から、貴重なご意見やご助言をいただいた。新しい教員が加わり、みずからの研究を展開し、大学院生を育てながら、センターの活動を行っている実態を踏まえて、ビジョン、ミッション、オブジェクティブズの改訂も視野に入れて、農国センターの今後の方向性を考えてはどうかという踏み込んだご意見まで頂戴した。お忙しい中、外部評価委員を引き受けていただいた上に、年度末の時期にもかかわらず、外部評価委員会に出席していただき、ご熱心な議論を展開していただいた3人の先生方に、この場を借りて、厚くお礼申し上げます。名古屋大学は、日本の大学の中でも、突出して、とくにアジア地域において、人材養成や研究教育活動を活発に展開していることは、国内でよく認識されている。この大学において、当センターが大学国際化の先導的な役割を果たすことを目指し、センターの中はもちろんのこと、学内の関連部局や他大学、関係諸機関の方々と議論の中で、いただいた貴重なご意見を発展的に活かしていきたい。

今後、本センターが関係諸機関との連携によって、我が国の農学分野の人材養成や研究教育活動をより一層発展させていく上で、本報告書が、各方面からの率直なご提言、ご意見、ご批判を頂戴する契機となれば、望外の喜びである。

2014年9月

農学国際教育協力研究センター
センター長 山内 章